増補

訓蒙図彙大成

六

頭書増補訓蒙圖彙巻之十二

畜獣

此部には山野や人間にすむことごとくのけだ物をあつむる

○麒麟ハ仁獣なり麕身牛尾一角あり牡を麒といひ牝を麟といふ生虫をふまず生草をふまず聖人の世にいづる獣なり

麒麟

○獅子ハ百獣の長なり一時に五百里を走る虎豹をも食ふ故に

補 虎豹といへども獅子とさへ恐るゝ也天竺の猛獣にて通力去ざいをなしりのありとぞ一名狻猊といふ

獅子

○獬豸ハ異國の獣なり其形獅子に似て一角あり一名神羊と云能曲直をしる皐陶獄を治る時その罪うたがハしきものハ獬豸にあつる罪あるものハ是を食罪なきハふれずと

獬豸

○虎ハとらなり猫のごとく大さ牛乃如し色黄にして前足をつよく一身の力前足にあり夜ゆくに一目ハ光を放ち一目ハ物を見る声ハ雷のごとく風おこる也

補云 およそ虎一声吼れハ百獣恐るといへり

虎 とら

○騶虞ハ白虎なりとその尾身よりながし仁獣なり

○豹ハかたち虎によく似てちいさし頭小く面白し毛色補黄の菜みなく白きかしめて甚美なり故に文の毛采とかしむといふ

騶虞

豹

○貘は熊に似たり象の鼻犀の目尾は牛のごとく虎の足銅鉄及竹を食ふ よく舐むるけだものなり

補 すべてあしき夢をくらふをいみすれバとて枕にゑがいて貘まくらと名づく

貘

○象ハ異國の
大獣なり
鼻牙ながく
食ハ口よりくらひ
水ハ鼻より
吸とりて三年
に一たび
乳を大山寄
山ふもとなり
牙をもて
て薬のうつハ
ものをかくる
象牙といふ
なるも

象

◎犀ハ毛豕のごとく蹄に三甲あり頭ハ馬のごとく三角あり鼻上額上頭上にあり

◦熊ハ毛色黒く形豕に似たり胸に白脂あり俗に熊白といふ洞穴にすむを穴熊といひ木をよぢて木熊といふ熊蟠ハく族のたぐひなり熊膽ハくまのゐ

○狼ハ狗に似て大也頭するどに頬白く前足高く後ひきし口ひろくて大き也力はよく諸獣をとりて食ふよく後をかへりみる

○豺ハ狼の類かたち狗犬にして頬白く尾ながし狼よりハ少し小く力はよく諸獣を食ふ悪獣なり

○鹿は馬のごとくにして小なり頭長く脚細くまだらし牡は角あり夏至におつ牝は角なし六月に多く子をうむ好で塩をくらふ秋の夜に入てつまを恋す虚労とおとろへ腰とわるきの一切の病に益あり
○麑は鹿の子なり

○麞ハ秋冬ハ山に
とこ春夏ハ沢に処
鹿に似て小さく
角なし黄黒色也
雄ハ牙あり
○麋ハ鹿にして大
青黒なり大さ小
牛のごとし目の下に
二の穴ありて夜の目
とす
○麢ハ羊に似て
青色にして大なり
角ハ細くて文あり
人の指ほどの太さ
四五寸皮をとりて
褥とす

麢 かもしか

麞 くじか

麋 おほじか

○麝ハ麞に似て小さく色黒し臍に香氣あり 補 じやかうといふハ是なり故よおのれが臍をかむと云

○羊ハ柔毛の畜なりよく群とあつまるゆへ群の字ハ羊にしたがふ

○綿羊ハ羊の毛のながきものとも又夏羊胡羊と云

○豕ハ猪彘の惣名なり野猪豪猪あとあり不潔を喰ふよつて豕といふあり腎虚を補ふ
○豚ハ豕の子也唐人ハ好て常に食と
○野猪ハ腹小く脚ながし毛褐色牙ふとく撥る力つよし味甘毒なし癲癇を治し肌膚を補ふ
○山猪ハ項脊に棘鬣あり長さ三尺ばかり筋のごとし觸ときハ矢を射るが如し

野猪

山猪

豕

豚

○馬ハ火氣を受て生る火ハ木ゟ生ずる事なくハを放ふ肝なく膽なし膽ハ本乃精氣なり本膽不足を放ふその肝をくらふもの死を

○駒ハ馬二歳なるを駒といふ又五尺以上を駒といふ

○驪ハ馬の純に黒きものなりくろこまなり

○騮ハあかき馬乃

黒きあかぐろなるをいふなり
騮同 かげのむまなり
○驄は馬の青白き色なり
連錢葦毛 あしげるむまなり
○駁は馬の色の純ならずしてまじはるあるなり
駮同 ぶちむませ

驄 あしげ

駁 ぶち

○牛(うし)ハ田(た)を耕(かう)す畜(ちく)なり唐(もろこし)にハ牛(うし)を殺(ころ)して祭(まつり)に供(そなふ)野牛(やぎう)水牛(すい)あり牲(いけにへ)にそなゆるハ太牢(たいらう)といふ

○犢(こうし)ハ牛(うし)の子(こ)なり犢(こうし)乃鼻(はな)男根(へのこ)に似(に)たるゆへ男根(へのこ)を犢鼻(とくび)といふなり

牛(ぎう)(うし)

特牛(ことひうし)

牝牛(めうし)

黄牛(あめうし)

犂牛(かりまだらうし)

犢(とく)(こうし)

○驢ハうさぎ馬といふ耳ながき馬なり唐にハ是とつ子倭國にハなき馬なり

○駝ハ背に肉鞍ありて峯のごとし頸ながくちかく脚高し其毛温厚にして狐の毛よりもあつくなり其ハ涼し

○狐は狗に似て鼻とがり尾太なり昼はかくれ夜出る馬骨をもつて叩けば火を出し食を求む是を狐火といふ又玉ありて光をはなつことあり百歳を経て小女と化して化る
といへり

○猫は眼睛子午卯酉には一糸のごとし寅申巳亥には満月の如く丑未辰戌には

狐 こきつね

猫 ねこ

は棗核のごとし鼻
常に冷かなり夏至
一日あたゝかなり
○狸は虎狸あり猫
狸あり猫狸は人を
食をくへども頭とかり
口方あり故虎狸と云
○貉は狐狸に似て
て毛黄にして褐色
なりよく睡る昼
はふして夜出る
○貒は犬に似て喙
とがり足黒く毛褐
色なり尾足みぢかく
ゆくことおそし耳
聾て人を恐る

貉 むじな

狸 たぬき

貒 まみ ちゞぬき

○獒犬ハ大犬なり
たかさ四尺あるを
獒といふ俗にこれを
唐犬といふ
○犬ハ味鹹温毒な
し五臓を安し気
をまし胃に宜し
○獶犬ハ毛長し
尨狵獅犬同し
むくいぬなり
○蝟鼠ハ貒のごと
脚短く尾長し
色青白し足毛
人をさす山谷田野
に生ず猬同
○靈猫ハ南海の山

獒犬 たうけん

獶犬 むくいぬ

犬 いぬ

谷ふ生をかくるた
ねさのおもし陰ハ
麝のごとし
○兎ハ前足みじ
かく尻に九の孔あ
辛平毒なし中
を補ひ氣をます
○猿ハ禺のたぐひ
猴ふ似て臂ながし
よく樹の枝を攀
○猴ハおもてハ人に似
るも腹ふ脚ありよ
きく行をかつて食
を消まとく立く
ゆくれせきんがしく
きて物を害を

霊猫 じやかうねこ

兎 うさぎ

○獺ハ水中にすむ
四足ともに短し色
青黒し魚をとり
くらふ水氣脹滿
を治す多食べからず
○貂ハ鼠のたぐひ
大にして黄黒色
なり毛ふかくして
あたゝかなり帽子
領巾として寒氣をふ
せぐ俗に栗鼠と云
○鼯ハ小狐のごとく
肉翅蝙蝠に似たり
脚みじかく尾長
さこゑハむろに声人の
まじはらく火煙と

猿 さる

猴 ましら

獺 かはうそ

喰ふゆへにより名
にかもしくぞより
ゑるされのかれうす
あさなぞ
○貂ハ鼠のたぐひ
なり皮裘につくる
亀し一名孔鼠
○海狗ハ膃肭臍
なり形狐ににて
尾ハ魚の身に
と
青白く毛ありて
青黒き點ありて
臍ハ脾腎の薬也
と活を
○海獺ハ獺に似
て大さ犬のごとし

脚の下に皮あり毛なふつい
て濡まどわじといふ
○水牛は色あをく腹大なれ
どかたち猪に似たり
あまて此食をれば清渇を
やめ脾胃を叶しあひ虚を
おぎなひ水腫を治す
○膃肭は海中にすむ獣也
毛色黄にしてさるのごとし
耳白く面と足は人のごとくに
て酒をこのむ血をとりて深
○狒々は猴年を積て狒々
となるといふ形人のごとくにし
て大なり脣長く反踵髪を
被ぶり迅走て人を食ふ人を
見ては大に笑ふ

海狗
おつとせ

海獺
うみをそ

水牛

○鼠ハ四歯ありて牙なし前の
爪四ツ後の爪五ツあり小児乃
驚風てんかんを治す
○鼷ハこ鼠なり鼠のちい
さきなり人をくらふて痛
まず瘡となる
○鼴ハうごろもちハ伯労の化
するものなり鼠に似て頭大
かのあしみじかく尾なし毛色
黄黒し地中をうがつてみ
ずから食ふ日月の光をおそる
○鼬ハ鼠より大にして身なが
四足みじかく尾大なりいろ
黄にしてあしよく鼠をとる
○角ハあらそふことありけだもの
角ともつくあらそふなるを

狒々

猩猩

鹿は夏至に角おちて
秋分にはゆる鹿角水
牛の角器につくる
○牙は歯のおほく大なる
ものなり象の牙は
大にしてよろづの物に作
る猪の牙は物をも
つそなめしうふを
○騣は馬の頸にあるを
てがみなりたてがみとも
いふなり鬃髶鬐鬣
ならびに同
○蹄はけだものゝ足の
さきなり麒麟は蹄
の下に肉ありて物をふ
んでやぶらずといへ

鼠 ねずみ

鼷 ちいかねずみ

鼹 うごろもち

鼬 いたち

角 つの

牙 きば

騣

蹄 ひづめ

頭書増補訓蒙圖彙巻之十三

禽鳥

此部には山林にすむる〱の鳥とのことをしるす

○鳳凰ハ神霊の鳥なり雄を鳳と云雌を凰といふ其かたち雞ニ似たり羽ハ五彩をそなへたり其声ハ簫のごとし生虫を啄ず生草をふまず桐にすむ竹實をくらふ
鳳皇 瑞鶠並同

鳳凰

○孔雀は大さ鴈より
も大なり高き冠あり
かしらに三毛ありて
く長さ一寸余翠角
緑色にて光る色
尾の玉は青くひかる
人になつく秋は
尾をひきて舞

孔雀

○錦雞は山どりに似て小く羽色は五色なり孔雀の毛紋乃ごとし鷩雉彩鶏並同

○白鷴は山雞に似て色白し黒き文あり尾の長さ三四尺なるもあり食をまば中を補ひ毒を解す

白鷴

錦雞

○鶴ハ長さ三尺高さ三尺余嘴乃長さ四五寸項目頬あかく脚あをく頸ながく指ほそく羽白くつばさ黒し夜半になく声をかはして孕むと糞ハ石に化す

○鸛ハ鶴に似ていただき丹もなくくび長く嘴あかく色灰白つばさ黒し高木に巣

○鶬鴰ハ鶬雞なりまなづるなり

鸛 こうづる

鶴 つる たんちやう

鶬鴰 まなづる

○鴈ハ大なるを鴻と
いひ小なるを鴈と云
久しく食すれバ
気をますし骨を
さうんふを
○鴻ハ鴈の大なるもの
なり江渚に多くわ
つまる也人ふ河と出也
五臓を利し丹石の
毒を解す
○鵠ハ鴈より大なり
羽白くまるく飛味ひ
あまく平毒なし人の
気力をまし臓腑を

○鵞ハ蒼白の二色
ありまなこ緑喙黄
に脚紅なりよく蟈を
食すれハ五臓の熱
を解す
○鶩ハあひる鳧に似
たり飛ことあたハず
羽色ハ白きあり頭黒
きいかもの羽色のごと
大寒毒なし風虚
寒熱水腫を治す
○䴔䴖ハ鳩の大さほ
どあり陸をあゆむこ
とあさらど水に入て

鵞 が ちやうがん

鶩 あひる

魚をとる
○鳧ハ品類多く大
小あり羽色さまぐなれ
ども図をなさとろハ俗
に云真鴨なり中にも
補ひ気を益胃を平にし
○鴎ハ白き鳩のごとし
喙みじかくむらがり飛
で日ふくや海辺に
住三月に卵をうむ
○鴛鴦ハ大さ鴨の如
し色黄黒羽青くひ
かる小毒あり夫婦和
せざるものにハひそか

鴎 かもめ

鳧 かも

鸊鷉 かいつぶり

鴛鴦 と り

食ふべし
○鷺ハ頸ほそく長く
喙脚ともに長し大小有
小なるハ頂に長き毛
有脾を益し気を補ふ
○鵁鶄ハ水鳥なり
大さ鷺のごとし頂白
色背黒をせぐろごゐと
いひかしらを星ごい
といふ諸魚の毒を解す
○紅鶴ハ一名朱鷺
といふ鷺より大なり
色白くかしわうし
俗にたうがらしと云

○鷸ハ大さ鳩より少
しふし喙脚長く
羽茶色ふ黒きふあり
田沢ふすむ大小あり
大なるをかぶとしぎと
いふ蘆蒲ひんと暖
○鸕鷀ハ鴉に似て
頸長く喙かし長
し水ふ入てよく魚
をとる林木ニ巣く
ふ漁人かつて魚をと
らしむ

鸕鷀

鷸

○就鳥ハ鷹の大なるものなり至て大なるハ七八尺ほあり其色ハ黄ミてまろ黒くふあり觜黄なり深山にすミて空中を飛かけりよく獣をつかミ喰ふ

就鷲

○皂鵰ハ鷹の大なるものなり翅つよく空中に飛めぐり諸鳥ハいふに及バず獣をとりて食ふ其長三四尺あり唐土にハ大鷹といふハ鷲鵰皂鵰といふをかり日本にてハ大鷹と称ずるものハ隼なとをいふ

皂鵰　くまたか

○鷹ハ惣名にして大小その品多く勇猛の鳥なれバ田猟にもちゆ。鷙鳥とそ志むる事ハそのかミ神功皇后の御代より百済国よりはじめて鷹を献ぜしとかやそのころの代〻鷹をもてあそびありし鷹ハ朝鮮国乃産を第一とす

鷹 たか

○隼ハ鷹の中ちさく
そのごとりのかり所も
大かたにして鳶などのあき
ど雉鴈鴨などの大
鳥とらふ鶴などを
ハ隼と二羽かへると
りや鶉同
○鷂ハ鷹のちさきの
なり鶏のちさきを兄
鷂といへるにふきを
雀鷂といへいづれも
かれらふさけきがふ鳥

隼（しゆん　はやぶさ）
白鷹（はくよう）

どころあり
○雀鷂　雀鷂
いづれも鷹の名小
鳥をとる鷹の種品
四十八あり鳶鴟梟
とらへて四十八種と
せりといへども
狩猟にもちゆる鷹
は其飼人の名付る
ありまたむかしより名
誉の鷹には悉く異
名あり亦異國より

鷂 はしたか
兄鷂 このり

けうりし鷹ハ異
類おほくにあるべし
唐鷹高麗南蠻
琉球日本にも東國
西國北國四國中國
ほくしその國々の
まりありとかや鷹乃
羽ハかざ羽ふ廿四枚ま
總合て四十八枚尾ハ
十二枚ありいづきも名
あるを鷲ハ尾ハ十四枚
あり

雀鷂　えつさい
雀鷂

○鸎は毛いろ青し立春のころよりはじめてさへづる声春陽に應ず

○鷦鷯は雀よりちいさく赤黒く黒きふあり寒中雪中ふきたる葉ハ居るぞ

○鶲は冬きたる雪びえといへば青くひくる羽色ありもそうひくきといへばいろに黒き羽まじへる

○山雞ハ雉に似てすこし小くして尾長く羽色黄赤し山にすむや鸐雉といふあぶらも食すれハ中を補ひ氣を益すと

○啄木ハ小さハ雀乃ごとく大なるハひよどりほどあり下腹赤く觜錐のごとく木につきうつろく虫を食ふ

○雲雀ハ一名蒿雀
ともいふ雀よりすこし大
に茶色にしてふあるを
三月の始より夏至の
頃まで空にのぼりてなく
囀る様ハおとし精
髄とおもふなり
○雉ハ雄ハ羽色美しく
尾長し雌ハ茶色なり
ちくふあん春陽に
至りてなく九月より
十一月まで食とすべし

○練雀ハ尾の長き
と短との二種あり大
さひよどりより小く
黒く褐又尾に白き
毛ありて練たる帯
のごとし
○鵐ハ雀の大さなど
ありて羽青く也し
ふあり冬月ある俗に
あをじと云ふ此鳥を
黒やきにして腫物
に付て妙薬なり

練鵲

鵐

○鶉はひよどりの大さなれどみじかく丸き形なり惣身にこまかなるふあり赤ふ黒ふの二品あり秋のすゑに至つてなく人此声をとい賞じて多く籠に入てかふ粟をこのんで食ふあはづ食をれば五勝をあらそひ中をとまをなす

鶉
うづら

○吐綬雞ハ大さ鶏のごとし頭雉ニ似まり羽の色黒黄ニしてかしあり項ニ嚢ありて肉綬を納日和よく快き時ハこの嚢をのべしあそぶ
○山鵲ハ鵲のごとくにして色黒く文采あり觜あかく尾長くしてとをく飛ことあたわど

山鵲

吐綬雞

○鶤雞ハ雞の大なる
ものなり一名傖雞
といふもろこし蜀
中に多し羽色黒
白の二品あり其性
勇にしてよく闘ふ
又しやむ國より渡
りし鶏あり是も
しやむといふ鶤鶏
よりはせ高く脚
ふとくつよくして勇也
闘とこのむ

○雞ハ朝鮮國を良とし羽色ハ品々あり俗にちやうくといふ久食すれバ虚を補ひ中ばあるため血をとゝの婦人の崩によし
○雛ハ諸鳥の巣だちなり初て生まてみづから啄を雛といふ母ゟ食をもらふを鷇といふ

○矮雞ハりうとし
江南に多けりかたち
小くして脚みじかし
二すんなり
○鸒ハ雀より小く
羽色文采あり腹の
下白くしてうつく
しき鳥なり
○燕ハ雀の大さほど
あり泥を含て屋宇
に巣をつくる戊巳の
日ハさるといへり

鸒 うそ

燕 つばくら

矮雞 ちやぼ

○鳩ハ惣名にて類おほし圖する處ハ俗よいふ名もなけ又八幡鳩ともいふ頸のまわり黒く毛色をかけたるごとし羽色灰白くほそ人此鳩とよぶ

○青鳩ハ山に住て里に出ず羽色緑褐又なり食すれバ虚を補ひ血を活を天子御衣の色是なり

鳩 はと

青鳩 やまばと

○鳲鳩は色褐にして
三月穀雨の後むらがり
てあく食をもとむは神と
安じてよつ鳥といふ又
是も鳩の類にて二月
の頃高く声を聞て豆を
まくといふ
○鴿は堂塔に多く
あつまり住むなり
精とその気を益悪
瘡を治薬毒を解せ
多く食すべからず

鳲鳩 しくう ふふこ

鴿 がう いへばと

○鶇ハ鵯の大さにて
羽ハ茶みして斑有
冬の暮に是を食
を味ひよし
○鵙ハ鵯よりすこし小
く茶色にて頭鷹の
如く小鳥を追肉食を
小児言てとおそれる鵙
の踏枝にてろつあり
○鶸ハかくら雀など
あり羽色黒く黄なる
羽まじる春きたる

鵙 もず

鶇 つぐみ

鶸 ひわ

○畫眉ハ畫眉鳥
かたち雀に似て大く
羽色もこれより頬白く
黒き毛あり
○鵞鳥ハ鵯より大に
翅ハ青く又黒き
かしらに羽あり秋の末
より冬月に来り鳴
○杜鵑ハ鵯より大に
色黄黒く口赤し
四五月の頃夜陰に
なく杜宇子規同

畫眉 ゑどり

鵞鳥 かしどり

○鵯ハ鸜鵒なり
又唎唎鳥といふ
身首ともに蒼孫
ろく色に黒きふあり
諸木の實を食ふ
秋冬多く来る
○鶺鴒ハ背かろく
尾長し飛ときハ鳴
居るとき尾をうごかすと
羽白背黒きをせぐろ
といひ青く黄なるを
きせきれいといふ

杜鵑 とけん
ほとゝぎす

鵯 ひ
ひよどり

鶺鴒 せきれい
いしたゝき

○翠雀ハ一名翠
鳥といふなり雀の
大さほどあり頭背
ともにるりいろにて光
つやゝあるハ紀鳥也
ちやうりといふものゝ
○蠟嘴ハ一名竊脂
といふなりひよどり
のおほきさにて喙ハ
みじかく黄なりまたまめ
といふ鳥あり蠟嘴
と同喙觜赤し

翠雀

蠟嘴

○烏鳳其身黒く
尾長し一名王母
鳥といふ
○雀は頭は蒜の顆
のごとく目は椒の目の
ごとし其性甚淫乱
なり食をましば陽を
はんふし気とほ
腰ひざをあたゝめ小便
をちゞめ血崩帯下を
治す頭を食ふべから
ず瘡を発す

烏鳳 おながどり

雀 すゞめ

○鸚䳇はよく言鳥なり白青くろ五色あり青き羽赤嘴あり唐鳥なり
○竹鷄は鷓鴣に似てちいさく褐色にしてまだらに赤し尾なし蟻をくらふ水辺にすむ

竹鷄 やましぎ

鸚䳇

○鸜鵒はかくらち鳥に似て小くよく人言となすとなむ唐鳥なり

○蝙蝠はかうもり鼠に似てつばさは紙となるがごとしものなり夏より秋の末まで夜はとび飛めぐりく蚊を食ふ昼は洞穴にこもり居つばさのさかふさまにてゐる

○鴉ハ觜太ふしてひさがり有を黒焼にしてやせ病欬嗽労瘵を治す
○烏ハ觜ちさく鴉よりも小なり生まれて母哺こと六十日巣にありて母を哺こと六十日よりて慈烏と云
○鳶ハ鷹に似たり鴟同黒焼にして頭風を治す

烏 からす
鳶 とび
鴉 からす

○怪鴟はふくろうの
たぐひなり夜出て
昼はかくれ居るかた
ちは鷹に似て小し
不祥の鳥なり
○角鴟はかたちふく
ろうにてちいさし頭
目猫のごとく毛角
有耳あり昼かくれて
夜いづる声老人の
わらふがごとし

角鴟 かくし みづく

怪鴟 けいし よたか

○梟ハふくろふ鳥に似て小く頭大にして丸く眼大なり夜出て昼ハかくれ居る雌ハ声さけぶがごとし母鳥を食ふといふ不孝乃鳥とぞ

○鵲ハ大さ鴉のごとく尾とがりて長し觜黒し食すれハ淋病消渇を治す婦人ハ食すべからず

鵲 じやく かさゝぎ

梟 けう ふくろふ

○秋雞ハ雞に似て小し頬白く嘴長く尾みじかく背に白まだらあり田澤の中にすむ
○鴗ハ大さ燕のごとし喙ハくちばし太く尖て長し足の色紅にして短し水辺に在て魚をとる土にあなをほりて巣つくる其色黒く青くひかる

鴗 りう かハせミ

秋雞 しうけい くひな

○火雞ハからち雞ニ類して高さ七尺くび長く日ニ飛行こと三百里異國の鳥なり駱駝馬ニ似たる故ニ名駱駝鶴とも云

○鶚ハ鷹の類なり鷹ニ似て羽色黄白なり海邊水上ニ飛めぐりてよく魚をとり食ふ

火雞

一名 駱駝鶴

○羽斑鷸はちどりのたぐひなり羽まだらにありてうつくし田澤にすむ鷸と同くむらがり飛

○鳽は水鳥なり大小ありかたち鴈鳧に類して脚は長し

鶚 みさご

羽斑鷸

鳽 えん

○鵯ハ小むくとりより大さひよどりよりもちいさく頭白く背黒白の毛なり秋の末多くむらがる味ひ美也
○椋鳥大むくとりハ小むくよりも大なり羽色もうすくして夏秋の頃来るものにあらず
○菊戴ハ至て小さき鳥なり惣身みな青し頂に黄なる毛あり天

菊戴

椋鳥 小むく

椋鳥 大むく

気よくはたらきかしこし頂の毛をひらけば中に紅の毛ある冬月来る鳥なり

○文鳥は雀ほどあり羽は黒く頬に丸く白き毛あり腹赤し

○四十雀は雀より小く頭黒く頬丸く白し背はうす青く腹白く黒き毛あり秋冬きたる

文鳥

四十雀

○山雀ハ雀の大さほどあり頭くろく背黒くところかに色あり羽づくひわるくもそよくくへるゆへに籠に入て飼ことあり
○鶸ハ四十雀に似て小し是も飼置には毛色うるはし
○小雀ハ鶸に似ていろくろく小しいづれも秋乃ものにてある

○繡眼児は雀より
小し羽色もえぎ色
腹うす黄なり目の
まわり白し多く集
り枝におし合とまる
鳥なり
○尾長は至て小さき
鳥なり頂灰白又羽
色うす黒灰白の毛
まじりとさわりを毛あ
尾長し秋より冬
にいたりて山に来る

繡眼児

尾長

頭書増補訓蒙圖彙十三

廿三

○駒鳥鴨より小く
頭背とも赤茶
又腹ハ黒き毛あり
山に住て里へいでず
鳴声よく人賞して
飼となす
○九官ハ一名秦吉
了といふ鳩より小く
惣身黒く翅ニ白
き羽ありよく人の
言葉をまね唐鳥
なり

○風鳥はかたち雀よりも大にして尾ともに長き毛ありてみのひきたるが如し色は緑にてひかりあるめづらしき鳥なり
○鸓は比翼鳥とも書なり雌雄つばさをならべて飛ともいふ此鳥實に見たる人なしとぞ

鸓

風鳥

○喉紅鳥はかしら雀の大さありのどより胸にいたりて紅にして美くしき名鳥せきとふあり
○深山頬白は小鳥にて羽色美なる鳥なり
○黄雀はすゞめに似て黄なり又紅雀といふは紅の毛あり又入内雀といふも有

深山頬白

黄雀

鸞

○鸞鳥ハ神鳥なり
かたち鶏ニ似て尾
長く声五音にあひ
る鏡を見れバ舞
○蒼鷺ハさぎより
大ニして青く腹白
雨夜ニハ羽青く光
りて人怪ミおそる
○葦雀ハ雀より
大ニりほく鳴葦
芦の中に居る河邉
澤のほとりニ多し

葦雀

蒼鷺

○鴆ハ鷹に似たり紫黒く喙赤黒し頸の長さ七八寸蛇を食ふ大毒鳥なり鳳凰をおそる

○雉鳩ハ鴿に似て羽蒼黒赤く茶色のふあり竹林に住むよりこゝとなく

○狗鴫ハ惣身茶色にて頸長く脚ながし海辺に住む

鴆

雉鳩

○都鳥ハかしらより背ハ黒く腹白し觜脚あかし水鳥也
○音呼ハ大小あり大なるハ鳩の大さあり小なるハ小鳥ほどなり又ハ紅色五色あるも
庫鳥あり
○羽ハ翎翰並ニ同
翮ハ莖羽根羽莖也
翈ハかざきり翮上の
短羽なり

音呼

鸀鳿

都鳥

○翼ハ鳥のつばさなり翅同大鳥ハ翼といへ小鳥を羽といふ

○尾ハ鳥の尾なり臎同

○嘴ハ鳥のくちばしなり喙同又吻ハくちびる觜ハくちばし

○卵雛ハ諸鳥のたまご鶏卵ハ五勝と匽水勝と温む